

暮らしと森林の共生



自宅の作業場に立つ茗荷さん。ここで多くの木製品を作り出してきた

「若桜のように雪が深い所では、木が苦しんだ木ほど、ええもんができる。木も硬いし木目も面白い」

県無形文化財保持者（人間国宝）の第一号で、「現代の名工」にも認定されている木地師の茗荷定治さん（68）若桜町若桜。ゲヤキで作った茶道具の表面をそとでながら、若桜の木の良さを語った。

古くから多くの樹木が繁茂する中国山地。豊かな森は、この地にさまざまな産業を呼び寄せた。その一つが木地師である。滋賀県の小椋荘を発祥とする木地師は、

木の文化 次の世代へ



木の器を使う子どもたち。生活の中に木を取り入れることが、森林保護につながる

良材を求め全国の山林に散った。中国地方では因幡地方に多く入り込み、山にこもって碗や盆などの日常製品を作った。

茗荷さんは、そうした伝統を受け継ぎ守ってきた職人の一人だ。

十六歳で見習いを始めた茗荷さんは、鳥取で民芸運動を実践した吉田璋也氏（一八九一年―一九七二年）の指導を受けながら、茶道具や盆などの木製品作りを始めた。

「木は使えば使うほど味が出てくる」との高麗の通り、茗荷さんの木器は使うほど色つやが出てくる。「ざつと使うもんで、丁寧な仕事をしとかんといけんわいです」。木の良さを知り尽くした職人は、日常生活

活に適した頑丈で美しい作品を次々と生み出している。

しかし、茗荷さんたちの努力の影で、戦後の日本では扱いやすい陶磁器やプラスチックが普及。一部が工芸品として残る以外は、木器は暮らしの中から消えていった。

そんな木のない暮らしに危機感を抱き、現代生活の中に再び木を取り入れようとしている職人がいる。伯耆町山陰谷で木地師として木器やスプーン作りに励む岸本彦さん（53）だ。背後には「木を使わなければ森がさらに荒れて、良質な水もなくなり、われわれの暮らしに影響してくる」という努力が続いている。

二年前、岸本さんは旧溝口町に、保育所の給食器として木の器を使うことを提案した。「給食は栄養だけでなく、文化も伝えるもの。子どもたちに木の温もりを感じてもらいたい」。行政にその思いは届き、現在も町内の三保育所で木器が使われている。

近隣の中学校では、木のスプーン作りも教えている岸本さん。今の人は木の名前も特長も知らない。まずは木の良さを知らなければ、ところから始めなければ、木を使ってこそ、人と森が共生するサイクルが生まれる。途絶えかけた木の文化を次の世代につなげ、森をよみがえらそうという努力が続いている。

企画・編集 新日本海新聞社企画開発部

山陰両県の森林保全などに取り組むNPOなどが参加して「森林を守ろう! 山陰ネットワーク会議」が設立されました。新日本海新聞社は活動の趣旨に賛同して同ネットワークなどの協力で森林保全の輪を広げる企画を来年3月まで随時掲載します。

森林保全活動レポート その④

子どもが安心して
おもいっきり楽しめる
「森の遊び場」づくりが
心の豊かさづくりにつな
がるのを願っています。



豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

「桜の木に実っているサクランボをちぎって食べてみよう!」
「川のせせらぎが聞こえるところまで近づいてみよう!」
森林インストラクターの優しい指導のもと、興味のおもむくまま、自然に触れる子ども達。ここ松江市宍道町の「ふるさと森林公園」では、気軽に参加できる「里山子ども自然塾」が開かれています。ふだんは山歩きをする経験になかなか恵まれない子ども達。でも、いったん興味をもって自然に接すると、新しい発見をした喜びを強く感じる様です。何回も参加している、いわば「もりふれ倶楽部のサポーター」も着実に増えています。

里山子ども自然塾 6、7、8月のスケジュール

- 6/24(土)9:30~12:00「木の枝を使ってネーチャークラフトをしよう」
- 7/1(土)「ジャムを作りましょう」
- 7/8(土)「こけ玉作り」
- 7/27(木)「草木染め」
- 8/5(土)「紙すき」
- 8/8(火)「木工細工でネームボードを作ろう」
- 8/16(水)「木の枝でアートを作ろう」
- 8/23(水)「竹楽器を作ろう」



- 鳥取県
NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
広葉樹文化協会(鳥取市)
財団法人 南部町地域振興会(南部町)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
トリネット(米子市)
日野川の源流と流域を守る会(日野町)
丸山生産森林組合(伯耆町)
- 島根県
出雲市林業振興協議会(出雲市)
NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)
NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
源流の森里山づくり(邑南町)
財団法人 島根県西部山村振興財団(浜田市)
里山を育てる会(松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)
森の仲間(出雲市)
遊木民倶楽部(益田市)
- 特別協力
新日本海新聞社
山陰中央新報社
- ※新しく参加された団体
薪ストーブ同好会(松江市)
松江ネイチャーゲームの会(松江市)
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
- この広告に関するお問い合わせは事務局まで
- 山陰合同銀行 地域振興部内
島根県松江市魚町10 千690-0062
TEL.0852-55-1820
- みんなで森を守ろう!

今回の森林保全活動レポートその④に登場する

NPO法人もりふれ倶楽部

「もりふれ倶楽部」は、「森とのふれあいを推進する」意味を込めて、2003年春に結成されました。森とのふれあいをテーマに、小学生対象の「里山子ども自然塾」、大人を対象とした「里山自然塾」が、それぞれ毎月数回開かれています。また、「森林ボランティアを養成するための山仕事講座」を3月に行い、現在はこの講座の卒業生が月1回、県内各地で森林ボランティア活動を行っています。地元2つの小学校区の生徒、父兄の方々が参加されていますが、もっと幅広い地域からの参加も募集しています。

里山子ども自然塾に参加ご希望は…「もりふれ倶楽部」へ
〒699-0406 松江市宍道町佐々布 3352 ふるさと森林公園学習展示館内
TEL.0852-66-3586 e-mail: morifure@coffee.ocn.ne.jp
定員: 約30名 参加費: 無料ですが、保険代100円が必要で、申し込み: お電話でお申し込みください。